

団結して難局を乗り越えていく



国労せんだい

No. 2708
2015年10月10日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

第70回地方大会終了 運動方針確立・全議案を承認

地方本部は第70回定期地方大会を9月27・28日の両日、松島町において開催した。大会では、労働条件改善、安全問題、組織強化拡大、16春闘など諸課題について議論が行われ、運動方針など全議案を承認、決定した。

大会概況

大会一日目

大会は歌川副委員長長の司会で始まり、代議員定数28人中27人の出席を確認して大会の成立を承認。議長団には、議長に村上



地本大沼委員長

震災と復興。大震災から4年半、復興は道半ば。被災者は先の見通しが立たず不安と苛立ち。政府は5年の集中復興期間を延長しない方針。不安と懸念の声が。支社内被災線区は5月に仙石線が運転再開、常磐線も急ピッチ。一方気仙沼線はBRTでの本稼働を提案し、当時の社長表明が反故に。我々は交通弱者の足を守る立場、鉄路での再建を強く求める。

安保関連法案。衆参両院で強行採決、今なお圧倒的多数の国民が議論不十分と異議。権力の暴走は許されず、日本国民への人権侵害だ。戦争法廃止に向けた勢力の拡大、特に10月の宮城県議会選挙、来夏の参議員議員選挙は重要。また共同行動を国民運動として継続していく。組織強化・拡大。現状は全組合員が認識。財政の裏付けがある今、果敢な取り組みを要請する。4月の23歳、36歳の青年に加え、一昨日にも22歳の労働者が国労の戦列に加わった。差別感の

職場の合意形成を

安全・安定輸送確立に向けた闘い。大小問わず事故が後を絶たず、会社課題とする技術継承がより困難な実態に。JR東は経営権移譲でグループ化の推進を謳い、子会社・関連会社・協力会社への本体業務を委託する

日間で23人が積極的に発言。代議員の発言を受けての書記長集約が行われ、全体の拍手で運動方針が承認された。スト権一票投票では出席代議員27人全員の賛成でスト権を確立。役員改選では定数通りの立候補があり全役員の後任が確認され、会計監査員一人が交代。特別決議と大会宣言の採択後、閉会のあいさつは中島副委員長が行い、大沼委員長の団結がんばろうで終了した。

実施を進め、駅・設備・検修等多くの業務が本体から切り離された。不十分な教育で、現場教育として冷や汗をかきながら業務している実態がある。組合員からは直接交渉を求める声があり、一部窓口は作られてきた。引き続き信頼関係を築きつつ、労使間協約の締結を求めていく。労働条件が低下する施策を国労は受け入れられない。TSSでの36協定締結での職場代表選挙の取り組みや福島テクノでの夏場の車内清掃の労働条件改善の取り組みに学び、労使関係を確立させ、国労の主張・要求が前進するよう職場の合意形成を図り改善に向けた取り組みを強化していく。



- | | |
|----------------------|----------------|
| 機関紙表彰 | 五十嵐 敬 (福島) |
| 郡工情報 | 千葉 弘 (宮城) |
| 郡工支部 | 阿部 政雄 (郡工) |
| 仙総所支部 | 山形 幸春 (山形) |
| 郡工貨物分会 | 鈴木 幸春 (山形) |
| 郡工所分会 | 武田 忠 (仙総) |
| 分会通信 | 阿部 政雄 (郡工) |
| 郡工貨物分会 | 阿部 政雄 (郡工) |
| 郡工所分会 | 阿部 政雄 (郡工) |
| 地方本部役員 | |
| 執行委員長 | 大沼 元 (宮城) |
| 執行副委員長 | 中島 利彦 (宮城) |
| 書記長 | 歌川 弘 (福島) |
| 執行委員 | 曾我 浩之 (宮城) |
| | 武田 昌仙 (宮城) |
| | 佐藤 勝 (宮城) |
| 地方委員 | |
| 宮城県支部 (8人) | 伊藤 純 (仙宮運輸区) |
| | 穴戸 康 (仙台保線区) |
| | 伊藤 稔 (仙台建築) |
| | 千葉 祐悦 (仙石線駅連) |
| | 立山 昭仁 (仙台電力区) |
| | 長谷川 義浩 (貨物宮城) |
| | 村上 正博 (岩沼駅連) |
| | 大和 秋男 (小牛田運輸区) |
| 福島県支部 (4人) | 小椋 正 (郡山駅連) |
| | 堀口 裕一 (郡山設備) |
| | 橋本 吉孝 (貨物福島) |
| 郡山工場支部 (1人) | 天野 一志 (貨物) |
| 仙台総合車両支部 (3人) | 伊藤 清志 (運輸) |
| | 高橋 進 (台車) |
| | 神山 和千雄 (運輸) |
| 東北自動車支部 (1人) | 早坂 修悦 (宮城県) |
| 山形県支部 (1人) | 土田 聡 (新庄連合) |

9・27 東日本電気協議会組織対策会議
28 第70回定期地方大会

10・10 15年度冬期対策・駅委託提案交渉
第49回安プロ・第40回業長合同会議

東日本本部菊池委員長

あいさつ要旨

平和と民主主義、政治的課題。戦後70年の節目に平和憲法が極めて危機的な状況に。戦争法案に反対する世論の声と行動に逆行し、安倍政権は衆院に続き参院でも強硬採決。法案は可決したが、世論の力で来年の参院選挙を勝利し廃案実現を。安倍政権は川内原発の再稼働を機にその動きを強めている。東日本本部は本部と連携し、現地の実情を視察・伝聞しフク

来賓あいさつ

(挨拶順・敬称略)

- 社会民主党 小山 勇朗
- 日本共産党 加藤 幹夫
- 宮城県平和労組会議 菅原 晃悦
- 東北労金宮城県本部 佐々木 幸
- 退職者の会仙台地連 沼下 清一
- 全交共済生協 橋本 昭二
- 国労東北協議会 佐藤 浩一
- 国労議員団 石川 建治
- 松崎 新
- 我妻 徳雄
- 長沢 勝幸
- 国労東日本本部 菊池 忠志

シマを風化させない取り組みと同時に、会社と交渉し、現場で働く組合員の環境改善の取り組みを強化している。

脱原発と戦争法案反対の取り組みを結びつけた大衆行動を強め、労働法制改悪など勤労国民に犠牲を強いる政治課題についても全力で取り組み。

労働協約改訂に向けた取り組み。先の大会で要求を確認し、8月28日に会社に提出。基本要求は健全かつ正常な労使関係の持続的発展と、公平公正な人事労務管理を職場

末端まで周知徹底し、和解における懸案事項の解消を図ることが柱であり、具体的要求では、制度について20項目、乗務員勤務について8項目、手当について9項目の合計37項目の要求提出。今後各地方からの要求をまとめ、10月に提出する予定。職場での通年闘争として取り組みよう要請する。

労働条件改善、安全・安定輸送の確立。地方と連携し、交渉を中心に取り組みが、出向先会社の労働条件改善は大きな課題。業務委託先では労働環境が著しく低下しており今後職協を中心にして要求を集約し交渉していく。

電化柱倒壊や架線切断など重大なインシデントを含む事故が後を絶たない。JR発足29年、平成採

用が6割を占める中、国労が職場から問題を指摘し、安全の低下を許さない取り組みを強化していく。組織強化・拡大。本部指令に基づき、組織拡大の大きなうねりを作り出す取り組みを強化してきている。

国労ラクシマ交流会「激励・視察」行動

レポート

9月11日、前日の大雨で河川の氾濫等による列車の運転中止など交通機関の乱れが発生したが、午後からは天気も回復。ただ、気温の上昇が著しく残暑的な暑さとなった。視察団一行は、水戸地本の仲間と鹿島駅前で合流。

今回の視察・交流では、南相馬市(小高地区)の仮設学校で学び子どもたちや先生方の実情や思いを学ぶこと、そして国労

組みを強化してきたが、目標には及んでいない。国労組織と運動を継承するため、これまでの経験を活かして柔軟な発想と取り組みで、あらためて全組合員への奮闘を要請したい。

原ノ町分会の激励行動と常磐線(駒ヶ嶺)浜吉田間)の復旧状況の視察が目的である。

学校の視察は福島県教組の協力により実現し、小高中学校の斉藤先生からは丁寧な説明と報告がされ、その実情を理解することができた。

第二十四回 皇居マラソン



日時 11月7(土) 受付 10時30分
集合場所 ニュー新橋ビル地下2階会議場(昨年と違います)
参加申し込みは地本まで!

インや公的機関が整ったとしても、放射線量の影響の問題や雇用の場の確保、住居の改築費用問題など生活していくには多くのリスクを抱えている。そしてこの状況の中で多感な子どもたちは生活を

原発事故後、住居を移転して避難生活を余儀なくされ、最低でも2回、多い人で4~5回の移転を経験している。その中で、差別的発言や扱いを受けて心が疲弊してしまっ

仮設住宅の生活では、テレビのリモコンで隣の部屋のテレビも操作出来るほど狭く、話し声もストリートに聞こえる。暑い・寒い、家族がバラバラな世帯もある。保護者も地域でのコミュニケーションが上手いはず、親として何をすればいいのかわからないという相談がされるなど、多くの

「常磐線S駅で勤務。代行バスが遅れがあった時の対応が特に大変(駅)」「やっとこの地区に戻ってこれたがこれまで輸送業務のみで、営業に苦勞している(駅)」「等の意見が出された。

この責任は誰が取るこつとした状況で、教師として難しい対応の場面が多々あるが、「一つのことでだけを信じるのではなく、その他にも多くの

意見がある」ことを話しているという。まさにその通りであるが、この原発事故は未だ誰の責任も明らかにされておらず、犠牲だけが弱いもの、特に子供たちに大きな犠牲が押し付けられている。今後の責任追及の取り組みの強化と、原発の不当性、二度と事故を繰り返してはならないことを強く感じた。

夕方、国労原ノ町連合分会の皆さんとの交流会では、国労本部を始め、東日本本部や各地方本部代表から激励のあいさつを受けて交流を行った。

その中で話された実態では、「原発事故以降、職場と仲間との分断を余儀なくされ、保線でエルダーになると、いわきや水戸方面に行くしかない。自分も間もなくエルダーだが、仙建を希望している(保線)」「国労は運動の強化を図り、現場の意見を重視した取り組みを要請する(保線)」「

「常磐線S駅で勤務。代行バスが遅れがあった時の対応が特に大変(駅)」「やっとこの地区に戻ってこれたがこれまで輸送業務のみで、営業に苦勞している(駅)」「等の意見が出された。

地域とともに、は...? 着いた。

退職のお知らせ

8月31日付

- 佐藤 誠一さん 東北工事事務所 (JRコンサルタンツ)
- 石山 昭夫さん 山形連合
- (Jテック山形)
- 千葉 義明さん 仙台電車区 (Jテック東)
- 後藤 秀一さん 仙・宮運輸区 (Jテック東)
- 渋谷 慶次さん 新庄駅連合

長い間お疲れ様でした

翌日は、原ノ町分会の金城さんの案内で、常磐線の駒ヶ嶺、新地間の工事現場や新旧の坂本駅を視察。

昨年の視察では旧坂本駅ではホーム等構造物が残っていたが、すっかり更地になって海側には防波堤が建設されていた。新坂本駅は高架駅となり無人駅になるかも知れないとのこと。駅周辺は多くの住宅が建設中で、復興に努力しているが、「無人駅」では、JRの言う「地域とともに」はどうか。こいつってしまったのか。昼食は、有名な「はらこめし」を堪能し帰途に着いた。

【報告者 国労宮城県支部 山田芳夫さん】